

# 社をわたる風 ～北杜高校だより～

ホームページアドレス <http://www.hokutoh.kai.ed.jp>

本誌は北杜高校の広報誌です。ホームページ上でもお読みいただけます。

TEL:0551-20-4025 FAX:0551-32-3194

## 山梨県立北杜高等学校



### 「社会を読む」教頭 清水 章男



グローバル化の進展と革新技術の導入により、社会を取り巻く産業構造も激しく変化しております。これからの社会を生き抜く資質・能力を身に付けていくためには、日頃から地域社会の動向を観察する目を持ち、あるべき社会の姿をイメージしながら生活していくことが重要です。IT技術の進歩は、私たちの生活に多くの利便性をもたらしましたが、一方では影の部分も持ち合わせていることも事実です。日常的になった情報ネットワークや情報端末については、使い方一つで負の存在になることも意識しなければなりません。また、今後、AIが急速に普及すると疲れ知らずの働き手として人間に勝る能力を持つようになると言われており、AIによって現在の仕事の半分は不要になると予測されています。現在に存在しない仕事を創り出していくのがこれからの社会を担っていく人間の仕事となります。AIと競争するのではなく、AIを使いこなし、人々や社会に必要なサービスやコトを創り出す資質・能力に磨きをかけなければなりません。創造的な思考を働かせながら他者と協働して新たな価値を生み出していかねばならないという社会はすぐそこまで来ています。

社会に目を向けながら、望ましい社会人としての能力を身に付けていくためには情報ネットワークなどの活用も一つの方法ですが、地域社会に生きる一員として人と人をつなぐコミュニティを形成していくことも重要です。質の高いコミュニティを形成していくためには、高校3年間における様々な体験活動を通して創造力や協働性を磨いていく必要があります。本校は、北杜市との包括的教育連携協定を締結して以降、専門家による講話や、市政報告会への参加、関係教科による地域事業との連携など、社会との繋がりを意識した学習活動が展開されてきました。このことについては、今後、更なる発展的連携が図られていくこととなります。生徒の皆さんには、北杜市を学びの場として活用していただきたいと思ひます。

社会に目を向けながら、望ましい社会人としての能力を身に付けていくためには情報ネットワークなどの活用も一つの方法ですが、地域社会に生きる一員として人と人をつなぐコミュニティを形成していくことも重要です。質の高いコミュニティを形成していくためには、高校3年間における様々な体験活動を通して創造力や協働性を磨いていく必要があります。本校は、北杜市との包括的教育連携協定を締結して以降、専門家による講話や、市政報告会への参加、関係教科による地域事業との連携など、社会との繋がりを意識した学習活動が展開されてきました。このことについては、今後、更なる発展的連携が図られていくこととなります。生徒の皆さんには、北杜市を学びの場として活用していただきたいと思ひます。

### 3年生の進路状況

平成30年1月13日・14日に大学入試センター試験が実施され、3年生80人が山梨大学・山梨学院大学・山梨英和大学の3会場で受験しました。(写真)昨年9月の就職採用試験に始まり、進学のアオ受験・推薦受験も12月上旬には結果が出そろうて、受験シーズンも後半に入っています。12月末時点での合格件数は表のとおりです。

		総合学科	普通科	計
四年制大学	推薦	12	30	42
	AO	7	10	17
短期大学	推薦	4	7	11
	AO	5	1	6
専門学校	推薦	35	14	49
	AO	28	8	36
進学計		91	70	161
就職	企業	29	4	33
	公務員	4	2	6
就職計		33	6	39

就職では、県内求人件数は150件以上となって、過去10年間で最も多くなりました。就職内定者は、2年次後半からの就職指導を続けてきた成果を十分に発揮しました。職種も製造業、サービス業など多岐にわたり、また、昨年はゼロだった公務員が、3人内定して



います。進学では、昨年と比べると大学・短大がやや減少し、専門学校が増加しています。アオ受験・推薦受験での合格率では、国公立四年制大学33%、私立四年制大学88%、短期大学100%、専門学校98%となっています。国公立四年制大学で、初めてアオ試験で合格者が出ましたが、公募推薦では苦戦を強いられました。大学入試センター試験を経て、10人が国公立大学後期試験に挑戦しています。具体的な学校名や企業名などの詳細は、3月下旬ごろにホームページ上に掲載する予定です。(進路指導主事 市川久)

### 実践的防災教育 指定校の取り組み

今年度、本校は実践的防災教育の推進事業指定校になり、生徒・教職員の防災意識を高めるために様々な事業に取り組んできた。

#### 避難訓練と緊急地震システム

予告なしの防災避難訓練では、実際の避難行動における課題を共有化し、課題解決に向けては、防災アドバイザーの助言や本校職員、地元県立学校代表者、地域関係機関等で組織する実践委員会での意見を参考に改善を図ってきました。今年度導入した緊急地震システムについては、防災訓練の質の向上や、有事の際の情報伝達、日常的な危機管理の面で重要な役割を果たしていくのではないかと思います。



### 被災地ボランティア⇒中学校へ成果発表会

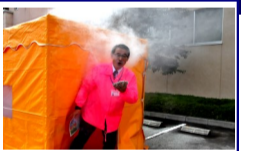
昨年8月1日から3日の2泊3日で高校生6名と教員2名が宮城県気仙沼市、石巻市、岩手県南三陸町を訪問した。被災地に向かうボランティアを定期的に運んでいる地域のバス会社の協力を得て、気仙沼市のNPO団体と被災した道の駅の美化活動をしたり、被災者と茶会形式で交流会をもった。復興の手助けとは何か、それぞれが考えるよい機会となり、帰校してから「命は自分で守る」ことを「伝えていくことが被災地ボランティアに行った者の義務」として近隣の中学校へ発表に行く機会も持った。



#### フェスタ杜のきらめき 防災ブース

実践的防災教育事業の一環として、地域との連携を目的としてフェスタ杜のきらめきにて防災ブースの展示を行った

- ①北杜市地域課に依頼し防災グッズの展示を行った。
- ②北杜消防署と連携しハイスクール防災リーダーの養成、生徒が応急処置の実演と、起震車・煙体験車、東日本震災時の被害状況のパネル展示。



#### 防災講話(気象庁など)

総合的な学習の時間で総合的な学習の時間で実施された防災講話では、甲府地方気象台防災官より全国各地で発生している地震の種類や特徴、地震発生の仕組みについてわかりやすく解説していただきました。大規模地震の発生の可能性が高まっていることについて危機感をもちながら考える機会となりました。また、防災への備えの重要性を実感する学びの場面となりました。



#### 職員研修会

山梨県防災局 防災対策専門官 原 友孝氏を講師に迎え、大規模災害発生時にいかにリーダーシップを発揮するか、生徒の安全を確保するためのリーダーとしての役割、条件等についての内容で実施した。東日本大震災時には石巻市大川小学校では大きな被害を出したことや、近年気象災害により、各地で大きな被害が起きていることを事例として、原氏は元自衛官であり、豊富な災害現場への出動経験を持ち、対応方法について様々な知見からの意見をいただき、職員にとって大変参考になる内容であった。

### !!卒業おめでとう!!

私は、福祉の仕事はやりがいのある仕事だと実習を通じて感じた。2年間の学習で介護職員初任者研修も取得することができた。指導して下さった先生方への感謝の気持ちを忘れず、将来の夢である理学療法士を目指したい。(福祉健康 篠原啓太)



私は北杜高校に入学する時すでに、環境工学系列に所属しようとしていた。将来の目標に向けて様々なことを学ぶことができた。先生方の優しく時には厳しい指導のおかげで非常に楽しい系列だった。(環境工学 浅川侑摩)



私は国際文化系列で、現代文や古典等の日本の文化や、今後更に国際社会が進展していく上で必要な英語や政治・経済などの学習に力を入れました。これらを通して国際的な視野や地元を愛する気持ちを大切に、今後も学んだことを活かしていきたいです。

(国際文化 清水茉莉菜)

私が毎日楽しく高校生活を送ることができたのは、友人や家族、先生方のお陰であり、1人では乗り越えられないことも多くありました。3年間支えてくれたみんなに、感謝しています。

(普通科 小松加奈)



### 修学旅行 『こんな時代だからこそ』 世界史 矢崎秀幸

なぜ沖縄なのか。なぜ2年生で行くのか。なぜ『高校生活最大の行事』と呼ばれることが多いのか。平和とは何か。戦争とは何か。そもそも沖縄とは何なのか。それらの「なぜ」や「何」に意味を持たせること、言い換えれば、自分なりの『答え』を見つけることがこの修学旅行の大きな目的であったと思う。

現地での体験や経験ももちろんだが、それに加えて、縁あって同じ時代に生まれ、幾重もの偶然が重なって出会い、4日間を共有した仲間、先生方、沖縄の地で出会った多くの人たち。そんな一つ一つのピースが全てカチッとハマって成立した修学旅行を終えた今の段階で、先に述べた「なぜ」や

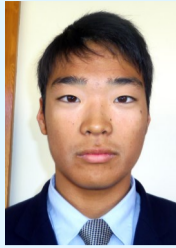
「何」に対する『答え』が必ずしも必要はない。しかし一生かけて考え続けてほしい。この時代を、社会を、平和を、そしてそこに生きている自分自身を。この修学旅行が、関わった全ての人にとって、これから歩む人生の中で多かれ少なかれ何らかの意味を持つこと、また、これからも多くを与え続けてくれるものであることを願ってやまない。





# 7冠！！

## スキー山岳部 2年 長嶺武



常に気持ちを強く持つということは私にとって大きな課題だった。クロスカンリースキーは雪上のマラソンと言われている。冬はとにかくスキーに慣れるため、雪上での時間走や基礎練習、後半はインターバルトレーニングを行い、トレーニングの強度を上げていった。大会では、練習の成果を糧に、レースに臨んだ。その結果、新人戦、総体、国体予選合わせて7冠を達成できた。その中でも、チームで臨んだ4x10kmリレーでは、皆が一丸となり優勝することが出来た。レースは本当に厳しい環境だ。自分に負けない、このぐらいでいいやではなく常に向上心を持つことが優勝につながったと思う。

我々、北杜高校スキー・山岳部は、グリーンシーズンは山岳競技を、ウインターシーズンはスキー競技を行っています。冬は数あるスキー競技の中で、セットされた旗門を通過して競うアルペン競技と決められたコースで競うノルディック競技に取り組んでいます。両種目とも体力だけでは勝つことはできないとても奥が深い競技です。両種目とも体力だけでは勝つことはできない奥の深い競技です。これから冬も夏も全力で活動して、全国で戦える力をつけていきたいです。応援よろしくお願いたします。(顧問 山本健一)

## 『最高の仲間』サッカー部副主将清水裕介

2年生の10月、3年生が引退し、私たちが最高学年となり高校サッカー生活最後の一年間となった。主将の小菅一聡を中心に新人戦に向けてスタートし、新人戦準々決勝では山梨学院に惜敗したが、「このメンバーなら本気で取り組みれば何かを成し遂げることができる」と実感した。

2・3月の厳しいトレーニング、県外遠征を経て、最後の高校総体に臨んだ。準々決勝の相手は、王者山梨学院高校、チームが一つになり終了7分前に決勝点を挙げ勝利することができた。準決勝の相手は日大明誠高校、勝てば「関東大会出場・中銀スタジアムでのプレー」私たちが目標にしてきた夢へのチャレンジが始まった。誰もが延長戦突入と思った瞬間のアディショナルタイム3分になるところでゴールが決まり、「北杜初の関東大会出場、初の決勝・中銀でのプレー」をつかむことができた。

決勝戦では、「初の決勝・中銀スタジアム」ということで緊張していたが、北杜生の仲間・先生方の応援や先輩・保護者の皆様の応援が背中を押してくれた。良い結果は残せなかったが、決勝の中銀スタジアムの大舞台でサッカーができたこと、北杜高校の大応援の皆さんと一緒に戦えたことが何より嬉しかった。そして関東大会という大きな大会で、山梨県代表として北杜魂を胸に戦えたことは最高だった。

最後の集大成として挑んだ選手権では思った通りの結果が出せず、後悔がないと言ったら嘘になる。しかし、一年間を通し、このチーム、このメンバーでなければここまで結果を出すことは絶対にできなかった。仲間には感謝しかない。そして何よりここまで熱く指導していただいた小泉先生をはじめとする先生方にも感謝の気持ちしかない。北杜高校で三年間サッカーができて本当に幸せだった。

## 『初出場！！ 関東大会』演劇部顧問 岩間光治



演劇って何をイメージするのでしょうか。シェークスピア？劇団四季？とかですかね。加えて高校演劇って？と言われると、ますます難解です。正直なところ私もよくわかっていません。したり顔で顧問をやっておきながら、私自身は高校演劇をやっていないのです。でも自分の中でポリシーはありました。そんな粋なんかどうでもよくて、単に面白くて、かっこよくて、観客が何かしら感動するものをつくれればいいんじゃないか、と。高校演劇だからこうでなきゃいけないとか、そんなものはどうでもいい、と。

それを生徒に求めるわけですが、とにかく俺を笑わせて、と思って稽古しています。稽古場は面白いですよ。5人しかいないですけど。エチュード(即興芝居)とかやるととてつもなくファンキーなことをして最高です。もちろん基本的な発声とか、ストレッチとか筋トレとかはしっかりやります。けどそれ以上に大事なものは、より良いものをつくりたいとする気持ちだったり、客観性だったり、協力しあうことだと思います。演劇は照明・音響・演技の3つがガッチリハマったとき、最高の瞬間が出現します。これは映画でも漫画でもアニメでもドラマでもできないことです。稽古はつらいときも多いですが、その瞬間があるからこそやっているんだと思います。なので、機会があったら是非とも公演を見てほしいですし、それに向けて努力していきたいと思っています。

## 躍動！！北杜高生！

### スケート部

### 今年一年 1年 佐藤天海

高校生になって最初のシーズンは、自己ベストを更新でき、大きく進歩できたシーズンになりました。今シーズンの成果は夏場のトレーニングを通して体力と筋力の向上が果たせ、冬の氷上での滑りにつながっていたと思います。関東大会では練習の成果を出すことができ、優勝することができました。来シーズンはさらに、夏のトレーニングで充実させたいと思います。

課題は気持ちが弱かったということです。インターハイでは、苦しくなったときに自分自身に気持ちで負けてしまい、スケーティングを崩してしまいました。日々の練習から自分にプレッシャーをかけて、メンタル面をもっと強くしたいと思います。(関東大会1500m、5000m優勝)



### 放送部

### 全国総文祭優秀賞 3年 雨宮日向梨

放送部の活動は主に大会に向けてドラマやドキュメントの番組制作で、アナウンスや朗読にも挑戦しています。3年生4人で挑んだ県芸術文化祭では、これまで5年連続全国大会に出場しているというプレッシャーもあり、部員同士ぶつかり合いながらも全国出場を決めました。



仙台市で行われた全国総文祭ではレベルの高い作品が集まりました。地元の楽しい話題を取り上げる作品が多い中、私たちは「地元が増えたソーラーパネルの問題」について取材した社会派の番組を制作しました。結果は、2年連続の全国で8校だけが選ばれる優秀賞受賞。今までの苦労やお世話になった方を思い出して泣いてしまいました。(2017全国総文祭ビデオメッセージ部門 優秀賞)

### 囲碁部

### 関東大会出場 2年 小林真斗

私は11月に行われた県大会級位者リーグで優勝し、1月21日に東京の関東地区高等学校囲碁選手権大会個人戦に出場しました。他県の人もその場の雰囲気完全に飲まれてしまいました。この大会に出場が決まったとき『優勝できたらいいな』と考えていた私はとても愚かだったと思います。ですがこの大会は、他県の人は深読みを正確に行い、ミスをする事なく打っていることを実感するいい経験になりました。今回惨敗し、レベルの差を思い知ったことにより、強くなりたという気持ちが一段と大きくなりました。次は高校生での最後の大会になるので、有終の美を飾って終わりたいと思っています。



### 金賞『静寂』写真部 佐藤佳南

私はこの写真部でたくさんの賞を頂くことができました。3年間、写真について勉強し、努力を重ねてきて良かったと思います。

3年では部長になり、部をまとめる責任や、「次はもっと上の賞を」という周りの期待やプレッシャーをより一層感じるようになりました。しかし、自分では「そのプレッシャーは自分に可能性があるから」とプラスに考え、休日や学校でも撮影をしていました。

2年までは堅苦しい作品などありきたりな写真ばかり撮ってきました。でも、最後の一年は自分の撮りたいものを撮ろうと決めて写真を撮り続け、金賞を頂く事ができました。これは私の周りにいる全ての方々の支えがあったからこそその賞だと感じています。自分の周りにはたくさんの素晴らしいものがあることを教えてくれたのは写真部だったと思います。(2017 県高校秋期審査会 金賞)



### 陸上部

### 躍進 2年 保阪真優

私たち陸上部女子長距離は、今年度2つの駅伝大会で過去最高の成績を収めました。好成績を収めることができた理由を考えると、2つのことが思い浮かびます。

まず、先生方や家族、仲間など、多くの方々への支えと応援があったから、次は一人ひとりの心、チームの仲間、他校の生徒を意識して練習に取り組んだからです。その結果、そして高1月に行われた関東大会で過去最高順位を収めました。さらに1月に行われた県新人駅伝では3位となり、タイムとともに過去最高成績を収めることができました。これからの、多くの方々の支えや応援への感謝を忘れず、仲間と切磋琢磨し北杜高校陸上部を躍進させていきたいと思っています。(関東大会駅伝出場)



### 吹奏楽部

### 芸術文化祭賞 副部長 塩谷花笑

昨年1月に開催された山梨県高校芸術文化祭吹奏楽部門発表会。私たちは参加の中で最も優れた演奏をした2校に授与される「芸術文化祭賞」を受賞することができた。今回演奏した曲は「鳥之石くすふねのかみ」と言われる曲だ。今までクラシック曲のアレンジ曲をコンクール等の舞台上で演奏してきた私たちにとって日本の曲の演奏は勝手が違い大変苦戦した。特に打楽器パートは、技術が無ければなかなか演奏できないほどのレベルであり、いつにも増して練習を重ねていた。日本の曲への挑戦は苦戦はしたもの、結果として今後の活動への励みにもなった。



### 剣道部

### 「秘訣」 女子部長 山下菜乃花



県総体へと繋がる大事な大会を控え、私は少しの不安を抱えていました。女子部長として「チームを引っ張ってこれたのか」という責任からです。大会当日、ベスト4に入り、3位をかけた試合で、富士河口湖高校と対戦しました。私たちは先輩が抜けたチーム、一方、一人も抜けていないチーム。がむしゃらに練習や練習試合を重ねてきたといっても、公式戦の緊張感は違います。1人ひとりが役割を果たし、チームの流れを意識しなければならない中、大将戦を前に勝負をつけてきてくれました。その気持ちの強さに驚き、また心強くもありました。新人戦で3位に入れたのは、間違いなく「チーム力」です。団結力の強さ、絶対に3位に入るという気持ちの強さが相手を倒した最大の秘訣です。(県高校新人戦 団体3位)

### 弓道部

### 関東大会個人 2年 藤盛瑞穂

弓道という武道は、的に向かって弓を引けばいいだけの競技と思っていたが、上手く引くのになんか悪戦苦闘するとは思わなかった。そんな中、指導して下さる顧問の先生方や先輩方、全員が初心者という同じスタートラインから互いに頑張ってきた同期や後輩。そしていつも支えてくれていた両親、これだけの支えられて関東大会出場という目標を達成し、今までもこれからも弓を引くことができる。私にとってかけがえのない人たちに、残り少ない大会で良い成績を残し、恩返しできるように練習に励んでいきたい。

### ギター部 「聴く力」 部顧問 坂口奈央

今年度の全国大会では「ギター合奏団体の手本となる演奏姿勢」として審査員特別賞を受賞した。あるファンから「北杜の演奏は熱い」と評価を受けた。ギター部の生徒達は決して率先して表に出るタイプではない。しかし、内に秘めた情熱が演奏を通して伝えられた。音の表現と向き合った彼らの努力である。しかし、それ以上に心の声に向き合った日々には心を熱くさせられた。

### 茶道部

### 芸術文化祭賞 部長 立岩日和

私たち茶道部は昨年秋、日頃のお稽古の甲斐あつてか芸術文化祭賞をいただき、山梨県代表として12月に京都で行われた全国高校生茶道フェスティバルに参加することができました。

2日間の日程の中で特に心に残っているのは、千利休ゆかりの大徳寺に行ったことです。普段一般人は拝観できない金毛閣に入らせていただきました。昔の人も同じようにここに立って、様々なもの思いをしていたのかなど、とても趣深く感じました。他にも、着物を着て全国の高校生に披露する交流呈茶や和菓子作り、高校生演ずる狂言や舞妓さんの芸の鑑賞など、京都ならではの貴重な体験をさせていただきました。